**第１３回登別市市民自治推進委員会　ぬくもり部会議事録**

（敬称略）

◆ 開催日時：平成３０年　１月３０日（火）　１８時００分～

◆ 開催場所：登別市役所２階　第１委員会室

◆ 出席部会員：部会長　 雨洗　康江

副部会長　田渕　純勝

　　　　 　　部会員　 千葉　円哉

鎌田　和子

　　　　　　　　　　　　 梅田　秀人（協働推進庁内委員会部会長）

【保健福祉部次長】

平田　雅樹（協働推進庁内委員会副部会長）

【保健福祉部子育てグループ総括主幹】

◆ 欠席部会員：部会員　　岩浅　眞純

　　　　　　　　　　　　 今 　順子

◆ 事　務　局：　　　　　早坂　晃正【市民生活部市民協働グループ主任】

◆ 議　　　題： 特定健診の受診率向上のための取り組みについて

≪部会長≫

こんばんは。

前回に引き続き、特定健診の受診率向上のための具体的な取り組みについて協議したいと思います。

　前回の全体会議の内容について事務局から説明等はありますか。

≪事務局≫

　全体会議は新庁舎についてのグループワークでしたので説明等はありません。

　先にお配りしている資料について説明をさせていただきます。

　以前、国民健康保険グループから話を聞いたときに、今年度から特定の医薬品を、ドラッグストアなどで購入した場合、税控除が受けられるという話がありました。税務グループ所管であるということで、税務グループに確認したところ、現時点ではお配りしている資料しかないということでしたので配布をさせていただきました。

≪部会員≫

　ジェネリック医薬品とは違うのですね。

≪事務局≫

　はい。

　今まで病院で処方されなければ購入できなかった医薬品がドラッグストアなどで購入できるようになり、購入金額が年間で決められた金額を超えていることや健康診断を受けているなどの条件をクリアしている場合に受けられる控除であり、その内容の資料をお配りしました。

　前回までの内容についてですが、病院で受診の際に病院側から特定健診を受診するよう声掛けをしてもらえるよう、改めて医師会に依頼することはできないか。

特定健診の受診率向上のための啓発活動としてチラシの配付等できないか。また、その配布するためのイベント等はないか。

特定健診を受診した結果、病気を早期発見することができたなどの事例を広報誌に掲載することはできないかという話がありました。

　以上の点について、梅田次長より報告がありますのでよろしくお願いいたします。

≪庁内委員≫

　まず１点目は、特定健診の受診について通常の受診の際に病院の先生から声掛けをしていただくことについてですが、室蘭市医師会には特定健診の受診率向上についてご協力をいただけないかと依頼した経緯があります。医師会としても会議の場ではお話いただいているので、取り組んでいただいている病院もあれば、そこまで手が回らないという病院もあるということです。

　定期受診をされている方に特定健診またはがん検診を受けてみませんかという声掛けをしていただいている病院もあり、現在も継続してご協力していただいている状況です。

　また、平成２４年には、登別市内や室蘭市内で本市の健診実施が多い医療機関につきましては、担当の健康推進グループが医療機関を回りまして健診の受診勧奨をお願いしたという経緯があります。ただ、医療と健診は別のものであるという考え方がありますので、中々浸透して行かないというのが実状であります。歯科医師や薬剤師等まで全ての方に依頼するとなりますと難しいところでありますが、継続する価値はあると思いますので、今後も継続したいと考えております。

　また、総合病院についてですが、健診は健診センターとなり同じ病院の中でも課が違うため、それを推し進めるというのは難しいということを担当から言われたということでした。

　担当としても努力はしているところで、ご協力いただけている病院もありますので、先生方の声を聞きながら今後も進めていきたいと思います。

　特定健診の受診啓発のチラシについて、広報誌に掲載という話がありましたが、毎年度４月に折り込みしています健康通信「きらり」をご存知でしょうか。そこには健診の日程など特集号を組みまして、健診種類、内容、種類、対象年齢、自己負担金、実施医療機関の一覧表、集団検診の日程等を記載して周知を行っています。ガン検診やピロリ菌、歯周病、集団検診などありますが、それらについても、チラシや広報誌への掲載、勧奨はがきを送るなどの取り組みをしているところです。

啓発チラシをどのように配るのかという話が以前ありましたが、地域包括支援センターが行うイベントで配布することができないか、今後、依頼をしていきたいと考えております。

　また、健診を受けた結果早期発見をすることができた事例を広報誌に掲載できないかという件についてですが、担当部署に確認し、実際にあった声を少し紹介いたします。

　特定健診と同時に受けた胃がん健診で所見があり、精密検査をしたところ胃がんが見つかった。

特定健診で高血圧であることがわかり、すぐに内服治療が始まった。健診の前から肩コリなど不調を感じていたが高血圧の症状であるとわからなかったため特定健診でわかり良かった。

特定健診で血糖値が高いことがわかった。すぐに内服は必要ないと言われたが、食事や運動など改善が必要であると教わることができて良かった。

家系的に血圧が高いことは薄々感じていたが、特定健診を受けたら高血圧だけでなく、肝機能、脂質、血糖値、尿酸値など血液検査の結果も悪いことがわかった。動脈硬化や血管の病気になるリスクも高いことがわかり恐ろしくなった。治療のきっかけになってよかった。

特定健診と同時に受けた眼底検査で異常があり眼科にかかった。自分では気付いていなかったので、治療に繋がって良かった。

特定健診で異常がないことがわかってよかった。これからも健診を大切にしたい。

という声がありました。

しかし、これとは逆に健診を受ける前から自覚症状があり、健診を受けたときに重症的な病名を告げられるのが怖いがために受けたくないという声もあるのも事実あります。

　そのようなこともありまして、これらの事例を広報誌に掲載するとなると、個人の意見になるということと、本人を特定されてしまう部分もありますので、慎重に進める必要はあるのかと思います。

　このような声を集めて、広報誌ではなく、例えばチラシなどに掲載するほうが良いのではないかと思いました。

　前回あった話についての報告は以上となります。

≪部会長≫

　先日、婦人会でも特定健診の話をしましたが、自分より家族を優先してしまうため、自分が受けに行くことができないという人と、家族が健康だと思っていたら病気が見つかり、それをきっかけに毎年健診を受診するようになったという人もいました。

また、商売をしている人は健診を受診する時間がないという声も多くありました。

　やはりきっかけが必要であり、以前話がありました市連合町内会の婦人研修会と登別地区の婦人部と合同で特定健診の話を聞くということを実施できれば、人も多く集まり効果があるかと思いましたので、今後、市連合町内会でも検討していきたいと思います。

≪副部会長≫

　そうですね。若い人も含めて１００人前後参加される事業ですので、健診を受けているなどの簡単なアンケートを取るだけでも効果はあるかもしれません。

≪部会長≫

　たくさんの女性が参加されるので、健診の話を聞いてアンケートに答えるだけでも健診に行こうという話もでてくるのではないかと思います。

　そのような機会も中々ないので良いのかと思います。

≪副部会長≫

　先程の報告のなかであったチラシをどのように配るかという話ですが、昨年の社会福祉協議会のシンポジウムで事例発表がありまして、「寄ってけーる」という地域包括支援センターが毎月実施されている事業ですが、血圧測定や健康相談など行っており多くの人が利用されているという話を聞きました。事例発表されるくらい素晴らしい取り組みですので、この中で健診のチラシを設置させてもらうことはできないかと思っているところです。

≪庁内委員≫

　チラシも市が作成しているのが、国民健康保険グループや年金・長寿グループのものになるので、対象者を限定してしまうので、考える必要があるのかと思います。

≪副部会長≫

　保健福祉部と地域包括支援センターとで当然コンタクトがあると思います。地域包括支援センターが作るチラシは、カラーで見た目も良いなと感じます。例えば、そのチラシの中に健診の話を盛り込んでもらうなどできないかと思うところです。

　それと、室蘭市でデータヘルス計画という素案が作成できたと新聞記事を見つけまして、その中に健診の率の向上を目指すと書かれていました。室蘭市での受診率は、３８．４％であり目指すのはプラス５％ということでした。室蘭市でも同じような悩みがあるのかと思いました。

≪部会長≫

　病院側からの声掛けについては、通院中の方は声掛けをしてもらえるのですが、健康だと思い通院していない方に対しては、チラシを配るなどの取り組みは必要になると思います。

≪庁内委員≫

　自営業者についても部会長からも話はありましたが、中々時間が取れないなどの理由で健診を受けられない方も多いということでしが、健診は冬場になると人数が減るそうで、待ち時間を少なくできるのかと思いました。

≪部会員≫

　私も調べてみましたが、保健師さんの役割がとても重要だと思いました。保健師さんが積極的に係わり受診に繋げるということが多いそうです。

　札幌では、とくとく健診という特定健診を受けて特定保健指導を受けましょうという取組みで、上手くいっているそうです。大都市だからできることなのかと思うところはありますが、このようなものがありました。

≪庁内委員≫

　保健指導については、健診を毎年受けている方が毎年同じ病気で引っかかり、毎年同じ指導を受けることになるので、その方は指導を受けないということになるため、指導件数の向上に繋がらない要因の一つになっています。

≪部会員≫

　関心を持っている人は自ら積極的に行動するので、安く検査を受けられることを調べて受けに行くと思いますが、その検査も定員があり漏れてしまった人からしてみれば、費用の負担を増やしてまで検査等を受けに行くのかというとそうではないのかと思います。

≪部会長≫

　私の知人に健診を受けないか話しましたが、少し体調が悪いと自覚させていても、重大な病名を宣告されることが怖いという話をしておりました。

≪部会員≫

　重大な病気になってからですと、それこそ治療費等が掛かり市の財政にも影響を与えてしまうことを一人ひとりがしっかりと認識しないとだめですね。

≪庁内委員≫

　今年は国民健康保険グループと年金・長寿グループが共同で町内会や団体などに特定健診に係る話をしてまわりました。その結果として医療費がどれほど削減できたかが見えてくるかと思います。しかし、今インフルエンザが流行しておりますので、そこで医療費がかさむと正直どうなるかわからないところであります。

≪副部会長≫

　今年は学級閉鎖になる学校も多くかなり流行しています。

　昨年のインフルエンザの影響でどのぐらいの人数で医療費がいくら掛かったのかということは知ることはできますか。

≪庁内委員≫

　流行病でどれほどの影響があるのか、わかるものがあるか次回までに調べておきます。

≪部会員≫

　室蘭のデータヘルス計画の数字と登別のデータヘルス計画の数字はやはり違うのですか。

≪庁内委員≫

　次回に皆様にお見せできるものを探して用意します。

≪副部会長≫

　あと、今後の進め方はどうしますか。

　特定健診の受診率向上のための啓発活動は、今後の内容を加味しながらチラシを作成するなどの話もありましたので、そのように進めて行くかと思います。

　先程の「寄ってけーる」ですが、２月２０日と３月２０日にあるのですが、そこでチラシを設置してもらうことは可能ですか。

≪庁内委員≫

　市が委託して行っている事業ですので、内容が大丈夫であれば設置はできると思います。

≪庁内委員≫

　担当から地域包括支援センターに相談してもらいます。

≪部会員≫

　登別地区や鷲別地区でも行われていると良いですね。

≪事務局≫

　ぬくもり部会で特定健診の受診率の向上について協議している中で、委員の皆様が意識的に健診について考えるようになり、知人への周知や実際に健診を受けに行く方もいましたので、これを自治推進委員会で広めることも一つの方法であると思います。

≪副部会長≫

　現在、市民自治推進委員会として健康を共通のテーマとしていますので、他部会と合同でお互いの部会で困っていることや何か協力できることがないかなどの話し合いの場があっても良いのではないかと思います。

≪部会長≫

　次回の開催は、地域包括支援センターの件を調整してもらいその結果がでてから日程を調整するということでよろしくお願いします。

　本日もありがとうございました。

**【次回以降について】**

●特定健診の受診率向上のための取組みについて

・「寄ってけーる」でのチラシ設置について

・登別市データヘルス計画について

●次回開催　未定